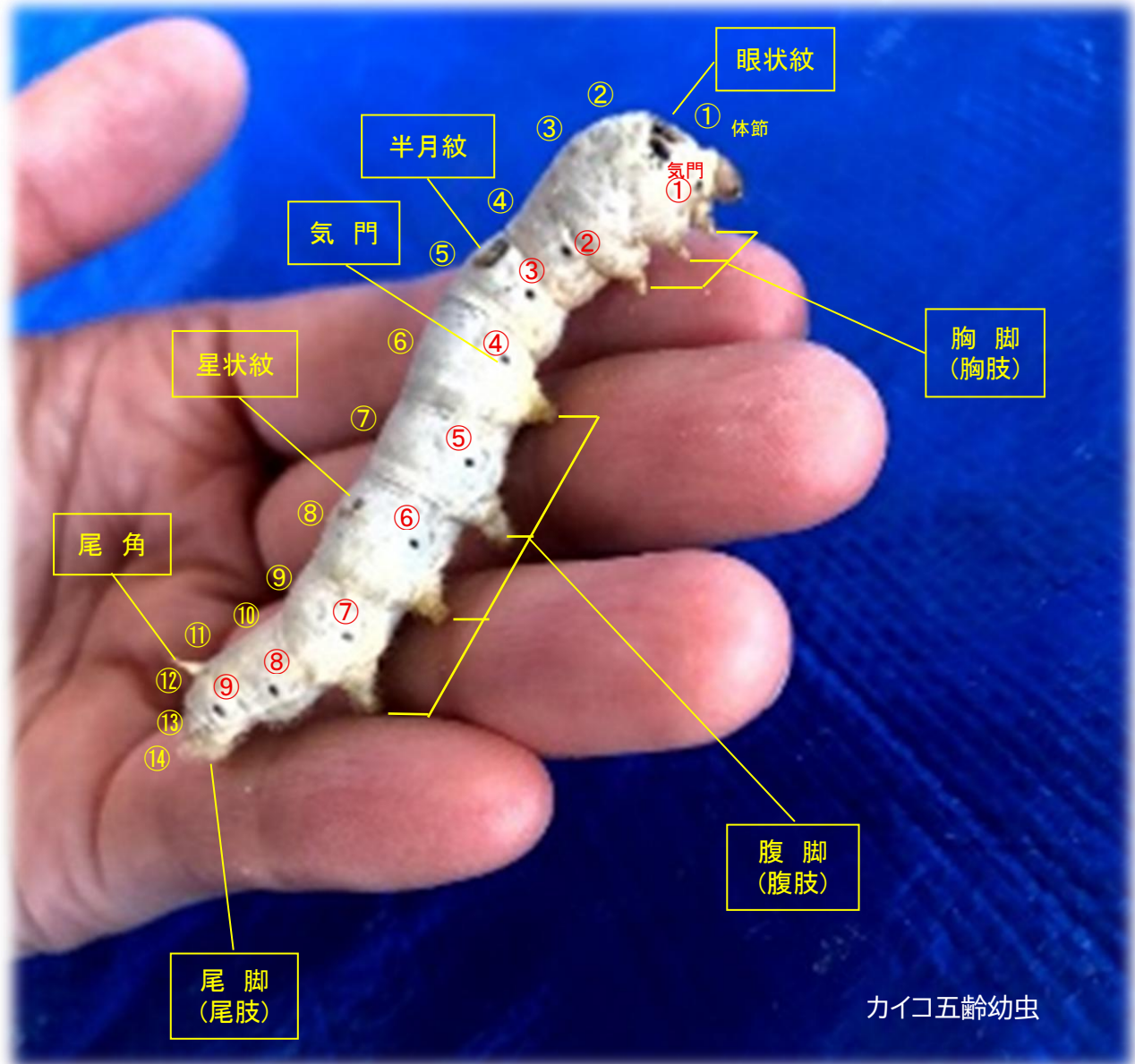


第 97 回企画展

おかいこさん

～ カイコ（蚕）絹をつくる昆虫～



令和8年6月5日(金)～

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

「生糸」は、カイコ（蚕）という昆虫の繭からとった、手を加えていない糸のことを言い、この糸から「絹」ができます。

絹は、カイコという昆虫が作る自然の繊維です。カイコの幼虫は蛹になる時に糸を吐いて繭を作りますが、この糸は切れ目なく続いていて、長さは約 1,500 メートルにもなります。この生糸を引きだして、何本かをより合わせたものが絹糸で、絹糸を織って作った布が「絹織物」です。

カイコを飼って繭をつくらせることを「養蚕」と言います。

養蚕がいつどこで始まったかは、はっきりと分かっていませんが、古代中国の黄河流域だと言われています。人間がカイコを利用するようになったのは、最初は繭の中の蛹を食用にするためだったとも言われています。繭を集めて、中から蛹を取り出しているうちに、繊維が作れることを発見したのかもしれませんが。今から 4,700 年ほど前の中国の揚子江流域の遺跡から絹織物が出土しています。

また、中国の殷の時代（紀元前 16～11 世紀）の甲骨文字には蚕や絹を意味する文字があることから、4,000 年前頃までには、すでに養蚕がはじまっていたようです。

今のカイコはもともと日本や中国の山野に生息していたクワコという蛾を、効率よく絹を生産するために数千年をかけて人間が飼いならし、改良を重ねてつくられたものと言われています。

今回の企画展では、カイコの一生や体の仕組み、養蚕に関する用具などをご紹介します。



シルクと繭



回転まぶしと上簇した繭



ざくりき
座繰機

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

北上市飯豊 3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間：水曜日～日曜日（月曜日が祝日の場合は開館）9:00～16:30（入館16:00まで）

休館日：月・火曜日（月曜日が祝日の場合は直後の水曜日）

入館料：一般330円 学生160円 高校生以下は無料 団体割引（20名以上）あり

障害者手帳などの交付を受けている方及び介護サービス事業などで入館される方は
入館料が無料

駐車場：大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台